

定期作況報告

(第5号 平成15年9月20日現在)
北海道立上川農業試験場

1. 気象概況

8月下旬：最高気温および最低気温は各々平年より1.0、1.2 低かった。降水量は平年より3mm少なく、平年対比93%であった。降水日数は平年より2日少なかった。日照時間は平年より17.4時間少なく、平年対比65%であった。夏日（最高気温25 以上）は3日間であった。

9月上旬：最高気温および最低気温は各々平年より0.7、0.9 低かった。降水量は平年より48mm少なく、平年対比16%であった。降水日数は平年より1日少なかった。日照時間は平年より8.5時間少なく、平年対比84%であった。夏日は3日間であった。

9月中旬：最高気温および最低気温は各々平年より0.1、0.2 高かった。降水量はほぼ平年並みであった。降水日数は平年より1日少なかった。日照時間は平年より15.0時間少なく、平年対比66%であった。夏日は1日であった。

8月下旬から9月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	8月下旬			9月上旬			9月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温()	24.0	25.0	1.0	22.5	23.2	0.7	20.6	20.5	0.1	22.4	23.0	0.6
最低気温()	14.3	15.5	1.2	12.2	13.1	0.9	11.0	10.8	0.2	12.5	13.2	0.7
平均気温()	18.9	19.8	0.9	17.1	17.8	0.7	15.4	15.4	0.0	17.2	17.7	0.5
降水量(mm)	49	52	3	9	57	48	53	52	1	111	161	50
降水日数(日)	3	5	2	4	5	1	5	6	1	12	16	4
日照時間(h)	32.5	49.9	17.4	45.0	53.5	8.5	28.9	43.9	15.0	106.4	147.3	40.9

注1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10か年の平均値。

3) 印は平年に比べて減を示す。

2. 作 況

1) 水 稲 : 不 良

事 由： 成熟期は平年に比べ成苗「きらら397」が4日、中苗「ほしのゆめ」が2日早かった。中苗「きらら397」は1日遅かった。登熟日数は平年並であった。

m²当たり穂数は成苗「きらら397」が平年よりやや少なかったが、中苗2品種では平年並からやや多かった。一穂粒数は平年対比73～86%でかなり少なかった。m²当たり粒数は30,000粒を下回り、平年対比74～84%で大幅に少なかった。

「ほしのゆめ」に比べ耐冷性がやや劣る「きらら397」の不稔粒発生が多く、「きらら397」の稔実歩合は成苗が83%で平年よりかなり低く、中苗が88%で平年よりやや低かった。中苗「ほしのゆめ」は平年並であった。よって、m²当たり稔実粒数（m²当たり粒数×稔実歩合）は23,000粒前後となり、平年対比75～81%で大幅に少なかった。

以上のことから大幅に減収することが予想され、目下の作況は「不良」である。

なお、8月まで生育調査を行っていた圃場が冷害危険期に漏水していたことなどにより不稔粒が特異的に多発生したため、周囲の生育と著しく異なると判断し、今月からは調査圃場を別に移した。そのため、m²当たり穂数については先月と今月で値が異なる。

訂正：定期作況報告第4号で記載された「きらら397」の平年の出穂期に誤りがありました。下記のように訂正します。

事由文章	誤	「…出穂期は平年に比べ中苗で2日、成苗で4日早かった。…」		
	正	「…出穂期は平年に比べ中苗で1～2日、成苗で3日早かった。…」		
表2	誤	きらら397	中苗の平年の出穂期	7.29
	正	きらら397	中苗の平年の出穂期	7.28
表2	誤	きらら397	成苗の平年の出穂期	7.26
	正	きらら397	成苗の平年の出穂期	7.25
表2	誤	きらら397	中苗の出穂期の比較	2
	正	きらら397	中苗の出穂期の比較	1
表2	誤	きらら397	成苗の出穂期の比較	4
	正	きらら397	成苗の出穂期の比較	3

表2 生育期節

品 種 苗	成熟期（月・日）			登熟日数（日）		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きらら397 中苗	9.17	9.16	1	52	50	2
ほしのゆめ 中苗	9.11	9.13	2	48	48	0
きらら397 成苗	9.11	9.15	4	51	52	1

注1) 平年値は平成8～14年の7力年のうち平成10年（最豊年）、平成14年（最凶年）を除いた5力年の平均を用いた。ただし、「ほしのゆめ」は平成9～14年6力年のうち同2年を除く4力年の平均を用いた。

2) ・ 印は平年に比べて早・減を示す。

表3 収量構成要素および稔実歩合

品 種 苗	m ² 当り穂数(本)				一穂粒数(粒)				m ² 当り粒数(×1000粒)			
	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)
きらら397 中苗	750	693	57	108	37.3	47.9	10.6	78	28.0	33.2	5.2	84
ほしのゆめ 中苗	770	756	14	102	33.3	45.8	12.5	73	25.6	34.6	9.0	74
きらら397 成苗	681	713	32	96	40.6	47.2	6.6	86	27.6	33.7	6.1	82
品 種 苗	稔実歩合(%)				m ² 当稔実粒数(×1000粒)							
	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)				
きらら397 中苗	88.1	92.1	4.0	96	24.7	30.6	5.9	81				
ほしのゆめ 中苗	92.0	91.3	0.7	101	23.6	31.6	8.0	75				
きらら397 成苗	83.0	91.2	8.2	91	22.9	30.7	7.8	75				

注1) 平年値は平成8～14年7カ年のうち平成10年(最豊年)、平成14年(最凶年)を除いた5カ年の平均を用いた。ただし、「ほしのゆめ」は平成9～14年6カ年のうち同2年を除く4カ年の平均を用いた。

2) 印は平年に比べて減を示す。

表4 出穂後経時登熟歩合

品 種 苗	出穂後20日目			出穂後30日目			出穂後40日目		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きらら397 中苗	0.0	6.7	6.7	35.0	45.3	10.3	74.7	67.8	6.9
ほしのゆめ 中苗	0.0	11.0	11.0	42.1	51.0	8.9	78.9	73.6	5.3
きらら397 成苗	0.0	5.3	5.3	29.8	42.6	12.8	68.9	70.6	1.7

注1) 平年値は平成8～14年7カ年のうち平成10年(最豊年)、平成14年(最凶年)を除いた5カ年の平均を用いた。ただし、「ほしのゆめ」は平成9～14年6カ年のうち同2年を除く4カ年の平均を用いた。

2) 印は平年に比べて減を示す。

3) 登熟歩合は比重1.06の塩水選で求めた。

2) 秋まき小麦 : 平年より6日早い9月5日に播種を行った。

3) とうもろこし : やや良

事 由 : 稈長は両品種とも平年より長く、生育量は平年より多い。着雌穂高は、「キタユタカ」は平年より低かったが、「P3732」は平年より高かった。
したがって、目下の作況はやや良である。

表5 9月20日のとうもろこしの生育

品 種 名	稈 長 (cm)			着 雌 穂 高 (cm)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
キタユタカ	254	245	9	105	110	5
P3732	293	268	25	141	132	9

- 注1) 平年値は、前7か年中、平成12年、13年を除く5か年の平均値。
 2) 平成10年度より栽植本数を7576本/10aに変更した。
 3) は平年より減を示す。

4) 大豆 : やや不良

事由: 主茎長及び主茎節数は両品種ともほぼ平年並である。分枝数は「トヨムスメ」で平年を下回っているが、「トヨコマチ」では平年並である。着莢数は両品種とも平年を下回っている。したがって、目下の作況はやや不良である。

表6 9月20日の大豆の生育

品 種 名	主 茎 長 (cm)			主 茎 節 数 (節)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	63	61	2	10.3	10.3	0.0
トヨコマチ	65	64	1	11.2	11.0	0.2

品 種 名	分 枝 数 (本/株)			着 莢 数 (個)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	6.4	7.5	1.1	61	74	13
トヨコマチ	6.8	6.7	0.1	70	75	5

- 注1) 平年値は、前7か年中、平成9年(最豊)及び平成8年(最凶)を除いた5か年の平均値。
 2) は平年より減を示す。

5) 小 豆 : やや良

事由: 7月下旬までの低温で着莢が遅れ、更に8月中旬以降の気温も平年並からやや低めに経過したため、成熟期は平年より4日遅れた。主茎長は「サホロショウズ」では平年より短かったが、「エリモショウズ」では平年並となった。分枝数は両品種とも平年を上回った。着莢数は「サホロショウズ」で平年を若干下回ったが、「エリモショウズ」では平年を上回った。なお、登熟期間が長かったため、百粒重は平年より重くなると予想される。したがって、目下の作況はやや良である。

表7 成熟期の小豆の生育

品 種 名	成 熟 期 (月日)			主 茎 長 (cm)			分 枝 数 (本/株)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
サホロショウズ	9.8	9.4	4	52	64	12	6.4	5.3	1.1
エリモショウズ	9.13	9.9	4	62	60	2	6.0	5.4	0.6

品 種 名	着 莢 数 (個)		
	本 年	平 年	比 較
サホロショウズ	56	59	3
エリモショウズ	64	58	6

注1) 平年値は、前8か年中、平成14年(最豊)、11年(最凶)、12年(参考)を除く5か年の平均値。

2) は平年より減を示す。

6) ばれいしょ : 良

事由: 「男爵いも」の枯凋期は平年に比べ8日遅かった。10a当り上いも重は、平年比115%と多収であった。でん粉価は15.5%で、平年より1.5%高かった。

「農林1号」は3区とも枯凋期に達していないため、収量調査は未実施であるが、試し堀りの結果、上いも重、でん粉価とも枯凋期の平年値に比べ10%以上、上まわっている。したがって、目下の作況は良である。

表8 9月20日のばれいしょの生育

品種名	枯凋期(月日)			上いも重(kg/10a)			でん粉価(%)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
農林1号 男爵いも	未達 8.31	未達 8.23	- 8	- 5217	- 4518	- 699	- 15.5	- 14.0	- 1.5

注1) 平年値は、前5か年の平均値。

7) てんさい : やや良

事由: 8月下旬以降、平均気温はほぼ平年並みで、降水量、日照時間はやや少なく経過したことから、前月に引き続き草丈は低く、生葉数もやや少ないが、根周が平年値をやや上まわっている。

したがって、目下のところ作況はやや良である。

表9 9月20日のてんさいの生育

品種名	草丈(cm)			生葉数(枚/株)			根周(cm)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
モノホマレ	46.6	61.4	14.8	28.9	31.7	2.8	35.9	33.1	2.8

注1) 平年値は前7か年中、平成10年、11年を除く5か年の平均値。

2) は平年より減を示す。